

神秘十字教会

2012年 総括 9/30 按手礼・牧師就任式

第二証 【神の道は私の道】

牧師（神師）・伝道師 天池治彦

今まで私が生きてきたこの世。今では、肉体が人生の中頃まで生きてきたのではないだろうか。その35と言う節目の時に神様より更なる使命が与えられた。今までも開拓伝道所として伝道師（者）と牧師を奉仕しながら行ってきた。その長きに渡る活動が神様によって認められ、正教師と神秘十字教会の牧師就任の聖職者（教職者）としての使命を私にお与えになられたのである。

この世は神様の世界。云わば神秘の世界である。人間は人間の世界だと思っているのだがそれは間違いである。人間の世界として経済やこの世の動きは回っているだろうが、他の動植物から見たら、あくまでもただの人間世界。宇宙から見たらあるのかないのか分からない世界と言える。

人間を創られたのは神様であり、我々はその僕に過ぎない。

人間は神に近づく為、高層ビル建設に競争で天をめざし、逆に地下深くへ潜る深海の地下を目指している。スピードもより速いことを目的にすることや医療技術、農業でもどの分野でも上を目指している。

人間の極め方は素晴らしいと思うが、神様の力を超えることはできないし、人間が神にはこれからもなれないであろう。それは、この世に生きているからである。生きることは死ぬことと同じであり、永遠に贖う者であるからだ。

私も神様に会い、人間とは弱気者であり、強気者であることを諭された。私が神様によって創造された9月の年、この使命をこの世の亡くなるまで行わなくてはならない。私は、神様の子の一人であり、述べ伝えなくてはならないからだ。

我が教会はどこにも所属はしない。所属は神様の直である。他の宗教や宗派は、あくまで人間が決めているように思うし、現実的に、利益を宗教内で争い、人間同士で、政治みたいに派閥や対立も行っている。前、私が所属していた人間の教団もそうであったのだ。

神様を学ぶための学校は多くあるが、そこも人間主導で行っているのが現実である。人間が人間に伝えることは伝道であるが、真の伝道ではなく、間違いも教えている。人間の規則で宗教をその組織を固めているに過ぎない。

私は、神様から直に学ぶため、神秘十字神学院を創り、神様より直に今日まで学んだ。神様は私に使命と間違い、諭しをお伝えになり、私がこの世で死ぬまで共に歩くと仰せになった。

神様とともにこれからも牧師として歩み、伝道師としても人々に伝え、奉仕として仕事を守り、生活の糧をしっかりと行っていく。それが、神様との契約したことになったのである。

我が教会では神様は聖だけでなく、邪も神様の一人で共に進まなくてはならない。聖がいいこととは限らず、邪が人間にプラスの力を与えてくれることもある。それはどういうことかと言うと、先ほど述べた経済発展の裏には人間の派閥争いがあったり、人間関係、または男女の関係があろう。その闇の部分での活躍がなかったら経済は成長しなかったかもしれない。そこが邪、悪の神様がプラスして下さった。そして聖と邪が共存して人間が成り立っているのである。

聖と邪は同じか神様であり、共に歩んでいかなければならない。人間は片方の神様ばかりを信じてしまうと、必ず摩擦が生じ、この世をうまく生きて行けなくなってしまうのである。

人間はだから一折では生きて行けない。信仰するあるお方がおられるから精神やこの世が安定しているのだ。

だからタイトルである通り、「神の道は我の道」なのである。建物の教会は小さくても構わない。造るのは人間であり、教会が大きければいいというのでは信仰が足りないと同じだ。

人間の精神とこの世が神秘であり、それが私の真の教会の場である。

我と神様と共にこれからも一歩一歩生から死まで歩いていくことをここに神様と智かい、契約し我が誇りとしたい。我が教会の神師の意味はさらに奥が深いことが証されているのだが、それは後に述べたいと思う。

アーメン。